

道南いさりび鉄道 第2次経営計画（骨子）

2024年（令和6年）7月8日
道南いさりび鉄道株式会社

第2次経営計画の策定について

■ 計画策定の趣旨

当社は、開業以来、地域の皆様のご支援のもと、通勤、通学、通院、買い物などの日常生活を支えるとともに、道南地域を訪れる観光客の皆様に、地域の魅力を楽しんでいただく役割を果たしてまいりました。

同時に、北海道と本州を結ぶ重要な物流ルートとして、貨物列車の安定的な輸送のための役割を担ってまいりました。

当社を取り巻く環境は、沿線地域の人口減少や少子高齢化の進行などにより大変厳しい状況に置かれていることに加え、施設・設備の老朽化に対応する設備更新や将来の鉄道事業を担う人材の確保・育成が大きな課題となっています。

こうした状況の変化や様々な課題はありますが、道南いさりび鉄道は、今後においても、「地域を走り、地域を結ぶ鉄道」として、地域の皆様の暮らしを支え、地域のまちづくり、魅力発信に寄与するとともに、日本国内を結ぶ貨物ルートとして、全国の皆様の暮らしを支えるという2つの大きな使命をしっかりと果たしていく必要があります。

この経営計画は、皆様に親しまれ、お役に立てる公共交通機関として、また日本の物流基盤として、その役割を担っていくために、安全を最優先とした運行の継続と利用促進、経営の安定化を目的として策定するものです。

■ 計画期間

2026年度（令和8年度）から2030年度（令和12年度）までの5か年とします。

※ 2031年度（令和13年度）以降の経営計画については、函館線（函館・小樽間）の経営分離後のあり方及び2030年度（令和12年度）までに新制度に移行する貨物調整金制度に基づく線路使用料のあり方等を踏まえながら、検討を進めていきます。

現状と課題

■ 経営状況

- ・ 通勤・通学・通院など沿線地域の生活路線としてご利用いただいておりますが、人口減少などの影響によって、運輸収入は開業時と比べて減少しています。
- ・ 運輸収入の減少や安全運行確保のために必要な施設の修繕費等により、経常収支は赤字が続いていますが、収支不足分は自治体からの経営安定化補助金によって補われています。

【利用状況】

(単位：人/日)

	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
輸送人員 (人/日)	1,988	1,869	1,801	1,729	1,431	1,445	1,469	1,456
輸送密度 (人/日)	575	531	512	479	417	421	465	437

【収支の状況】

(単位：百万円)

	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
経常収入計	1,511	1,576	1,662	1,801	1,666	1,747	1,917	1,929
経常支出計	1,698	1,781	1,839	1,996	1,883	2,004	2,125	2,141
経常収支	△186	△205	△177	△196	△217	△257	△208	△212
経営安定化補助金	146	167	169	197	201	249	211	197
その他	39	38	8	△2	15	8	△2	15
当期純利益	0	0	0	0	0	0	0	0

■ 課題

- ・ 将来にわたって人口減少の進行が予測されており、運輸収入の減少が見込まれます。
- ・ 施設・設備の老朽化によって設備投資の増加が見込まれます。
- ・ 安全確保のための設備投資を計画的に進めていくためのキャッシュフローの改善を図っていく必要があります。
- ・ 企業としての自立を図るため、社員のプロパー化の推進と人材の育成が必要です。
- ・ 車両の老朽化が進んでいることから、将来的な車両のあり方を検討していく必要があります。

経営の理念

■ 経営理念

「地域を走り 地域を結ぶ鉄道として

くらしを支え 地域とともに歩みます」

■ 経営目標

- 1 鉄道輸送の安全性を最優先とします。
- 2 沿線地域の生活路線としての利用実態に即した利便性確保と更なる利用促進に努めます。
- 3 簡素で効率的・機能的な組織体制のもと経営の安定化をめざします。
- 4 地域全体と連携し地域とともに歩む鉄道であり続けます。

重点的な取組

- 1 鉄道輸送の安全性を最優先とします。
 - ・ 運輸安全マネジメント制度に基づく安全管理P D C Aを推進
 - ・ 鉄道施設の効率的で効果的な設備保守管理、車両のあり方について検討
- 2 沿線地域の生活路線としての利用実態に即した利便性確保と更なる利用促進に努めます。
 - ・ 利用実態等を踏まえた運行ダイヤの見直しや運行情報の発信等による利便性の確保
 - ・ モデルコースの提案やSNS等による魅力発信、観光列車運行などの積極的な利用促進
 - ・ 五稜郭駅売店のサービス向上、オリジナルグッズの魅力向上・発信力強化
- 3 簡素で効率的・機能的な組織体制のもと経営の安定化をめざします。
 - ・ 各種業務・体制等の見直しの検討、設備投資・運営資金確保などの経営基盤強化
 - ・ 着実な人材確保によるプロパー化の推進、育成強化やキャリアパスの明確化
- 4 地域全体と連携し地域とともに歩む鉄道であり続けます。
 - ・ 沿線自治体や地域応援隊、沿線地域企業等との連携

収支改善の取組

- 令和7年度までに実施する取組
(調整中)
- 令和8年度以降に実施する取組
(調整中)

数値目標

- 輸送人員等の目標
 - ・ 将来の地域の人口減少等を考慮して数値目標を設定します。

【輸送人員及び輸送密度の目標】
(調整中)
- 収支の目標
(調整中)
- 設備投資の見込み
 - ・ 当社の施設・設備は老朽化が進んでおり、安全を確保するために、2026年度(令和8年度)～2030年度(令和12年度)の5年間に、次の設備投資を見込んでいます。

【2026～2030年度に予定する主な設備投資】

区分	主な内容
1 保線・土木	橋マクラギ合成化 等
2 電力設備	変圧器更新, 電車線引留装置更新, コンクリート柱補修 等
3 信号設備	CTC装置更新, 踏切しゃ断機更新, 踏切無ししゃ断対策, 信号ケーブル更新 等
4 通信設備	列車無線システム更新, 沿線電話機更新 等
5 車両(キハ40)	車両設備更新 等
6 その他	ソフトウェア 等

- キャッシュフロー(資金収支)
(調整中)